



国際キッチンでベトナム伝統料理のスープ・フォーと揚げパン作り

今、生き生きと

東川町国際交流員
コン・フィエン・トン・ヌー・ジェム・トゥーさん

ベトナムは今、日本ブーム。小学校から日本語を学び始めているそうです。昨年10月、ベトナム人高校生と先生17人のスタディーツアーで同行通訳として来町し、その縁が今の職場につながりました。「東川は豊かな自然、優しい人々がいます。ベトナムの人たちだけがでなく、世界に伝えたいです」。

「6歳の時、テレビで初めて日本のドラマを見ました。『おしん』というドラマです。知っていますか？ おしんは、日本のすごく貧しい時代に生まれました。苦労して事業に成功する話です。今のベトナムに似ているかなあ。小学校1年生の時、心に強く残りました。まだ白黒テレビで、4軒に1台でした」。

ベトナム戦争終結から4年後に

生まれました。戦後の復興期に入っていた時代に見たテレビドラマ「おしん」は、その後日本のかかわりにつながる進路へと強く背中を押したようです。

英語選抜の高校を卒業後、大学進路に選んだのは、フエの市内でただ一人日本語学科。「親に隠して、何も言わずにホーチミン国家大学に願書を出しました」。

「大学に入る前、学科に入学してきた友達はいませんでした。日本語ができたけれど、私だけ何も分かりませんでした。夢の中にまで出てきてすごく苦労しました。『でもこれは私が選んだ道』と頑張った。1週間で五十音が分かるようになりました。勉強すればするほどおもしろくなってきたんです」。



ベトナム中部日本語祭りでは開催実行委員長を務めました(右から5人目)=2011年9月、フエ市で=

来日し、旭川校に異動後、同大学修士課程で日本の国語教育学も学びました。

「北大の博士課程で学んで国に帰るつもりでした。そのために働かなければいけない。それで協同組合に勤めました。その時、北海道をほとんど回りましたよ」。

日本とベトナムの関係を進めるために課題がたくさんあることに気が付きました。JICA(日本国際協力機構)プロジェクト、国際交流、教育現場で14年間活動してきた経験をもとに、「二つの国のつながりをもっと深めたいと



くらし楽しくフェスティバルでベトナムの文化、食を紹介(9月、キトゥン森林公園国際キッチンコーナー)

北海道に来て6年目。教育大学函館校の外国人教員として

コン・フィエン・トン・ヌー・ジェム・トゥーさん

ベトナム社会主義共和国フエ市出身、36歳。東川町国際交流員。通称、トゥー・トンヌーさん。ベトナム大学教員免許、ベトナム観光局国際ガイド資格、日本語通訳者。ホーチミン国家大学人文社会科学大学卒業(日本語学科)。北海道教育大学大学院旭川校修士修了。政府系国際観光会社(ツアープランニング、開発部5年間)。フエ国立大学外国語学部日本文化言語学科教師、副学科長。2011(平成23)年9月、北海道教育大学とフエ大学間の教員、学生交換プログラムでベトナム語とベトナム文化教員(函館校・旭川校、平成27年3月まで)。協同組合アジアネットワーク事務局職員(札幌、同28年7月まで)。ベトナム王国グエン王朝(1802-1945年)の王族5代目の子孫。漢越文字(漢字を使ったベトナム語旧文字)で「コン=公」「フィエン=玄」「トンヌー=孫女」「ジェム=優」「トゥー=女」と書き、「王家を継ぐ子孫である至宝(珠玉)の女性」という意。

=11月号からの「世界を知ろう!」(9分)を担当=